慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	The theory of value, by William Smart
Sub Title	
Author	
Publisher	三田学会
Publication year	1913
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.7, No.1 (1913. 1) ,p.206- 207
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19130122-0206

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

量の効用卽ち限界効用に單位の數を乘じたるものなり。又價格とは限界効用を貨幣にて言ひ現はしたるものに外ならず。貨幣の効用も亦、他の貨物と同じく、其の數量の增加するに從ひ、遞減するものなるが、其の數量如何程增加するとも其の効用は零と爲ることなし。如何となれば、貨幣は單に一欲望を滿足せしむる一貨物に非ずして、之を以て總ての欲望を滿足せしむる貨物を購ふことを得べければなり。

本書は前述の如く、伊太利派の重鎭なるジェボンス、ウイザー、ベンバウエル及びメンガーの學說を紹介するに力めたるものなるが、著者はマーシヤルの感化を受くること尠からざる人なれば無意識的にマーシヤル敎授の折衷主義の論法を用ゐ從つて其論旨明確を缺く所なしとせず。又行文流暢と稱することを得ざるのみならず、往々にして修辭學の原則を無視せる所尠からざるを以て、英語に熟達せざる外國人は多少難解の字句を發見するならん。然れども、此批評は主として本論に適用さるべきものにして補論は第一第二共に論旨明確、且つ文章は本論に比して多少の改善を見る。惟ふに本書を通讀せんと欲する者は先づ補論第二を讀み、次に補論第一を讀下し然る後本論を讀むを以て可とせんか。

要するに本書は著書自身も告白せる如く、何等獨創の學說を載するものに非ずして、單に墺太利派の學說の大要を紹介せるに過ぎず。されど我國の初學者にして英文にて數時間內に其學說の大要を知らんと欲する者に取りては本書は一好著たるを失はず。代價の安きも亦本書の一長所と看做すべし。

The Theory of Value

by William Smart

千九百十年發行小判百二頁

東京賣價　七十五錢

本書はグラスゴー大學の敎授にしてベンバエルクの資本論の飜譯者として知らるゝウイリアム・スマート氏がメンガー、ジエボンス、ウイーザー並にベンバエルクの研究を基礎として、英國に於ける經濟學の初學者に所謂澳太利派の價値論の骨子を紹介するの目的を以て千九百九十一年に上梓したる小册子の再版なり。載する所は第一章緖論、第二章價値の分析、第三章効用と價値との異なる點、第四章價値の標尺、第五章限界効用、第六章疑點と說明、第七章補足貨物、第八章主觀的交換價値、第九章主觀的價値と客觀的價値、及第十章價格、第十一章主觀的の評價は價格の基礎なり、第十二章生產費、第十三章限界生產品と生產費、第十四章生產費と生產品、第十五章結論を以て本文と爲し、之に加ふるに補論二篇を卷尾に揭げたり。補論第一には貨物の數量增加すると共に全部効用は遞增するも全部價値は却つて遞減し、遂に零となることある現象に對するウイザーの所論を紹介し、補論第二には價値の研究に必要なる概念の定義を與へたり。曰く、富は有用なる物より成る。又曰く富は價値ある物より成る。されど此價値を有する或る物の價値と他の物の價値とは何を標準として比較すべき乎。曰く効用卽ち是れ也。然りと雖も、此効用なるものは必ずしも倫理上の効用たるを要せずして、單に人の欲望を滿足せしむることを標準とす。而して人の欲望なるものは普通一定の時には滿足せしむることを得るものなれば、貨物の數量增加するに從ひ、其貨物の効用は遞減す。是れ卽ち効用遞減の法則なりとす。全部効用は貨物の各單位の効用を合計したるものにして、全部價値は最後の一單位